

評価項目について（試案）

	評 価 項 目	
	動 物	植 物
対象生物の定着の可能性	これまでの定着実績 環境への適応性 両性生殖の能力 単為生殖・無性生殖の能力	これまでの他地域での定着実績 環境への適応性 種子生産と分散能力 栄養体からの再生能力
生物多様性に関する影響	上位捕食者としての影響 植生などへの影響 競合・駆逐の可能性 交雑による遺伝的攪乱 在来生物への病気・寄生虫の媒介	競合・駆逐の可能性 交雑による遺伝的攪乱 土壌環境の攪乱等を通じた他の植物への影響 在来生物への病気・寄生虫の媒介
人への影響	財産など（農林水産業など）への影響 健康への影響	財産など（農林水産業など）への影響 健康への影響

対象動物の定着の可能性に係る評価項目（例）

評価項目	内容
1-1．これまでの定着実績	<p>対象動物は、導入しようとしている地域と類似の環境条件を有する他の地域において、</p> <p>a. 近縁種（同属別種、同種別亜種）も含め、定着したことが知られていない。</p> <p>b. 近縁種が定着したことが報告されている。</p> <p>c. 定着したことが知られている。</p>
1-2．環境への適応性	<p>対象動物は、その生理生態的特性や原産地の気候、導入しようとしている地域の気候、植生や生物相などの環境条件を勘案して、</p> <p>a. 食物を得られないまたは越冬できないなど、年間を通して個体が生存できない。</p> <p>b. 食物を得ることができ、耐寒性、耐暑性があるなど、導入しようとしている地域の環境に順応して個体が生存できる可能性がある。</p> <p>c. 導入しようとしている地域と同様の環境条件を有する他地域で定着したことがある。</p>
1-3．両性生殖の能力	<p>対象動物は、導入しようとしている地域の気候、植生、生物相などの環境条件下で、</p> <p>a. 営巣、産卵もしくは出産できない。</p> <p>b. 営巣、産卵もしくは出産できる可能性がある。</p> <p>c. 営巣、産卵もしくは出産できることが報告されているか、すでに繁殖した実績がある。</p>
1-4．単為生殖・無性生殖の能力	<p>対象動物は、導入しようとしている地域の環境条件下で、</p> <p>a. 単為生殖や無性生殖（出芽など）を行わない。</p> <p>b. 単為生殖・無性生殖を行う可能性がある。</p> <p>c. 自然条件下で普通に単為生殖・無性生殖を行う。</p>
評価結果 a.のみ b.がある c.がある	<p>1 A．導入しようとしている地域で定着の可能性はない。</p> <p>1 B．導入しようとしている地域で定着の可能性はある。</p> <p>1 C．導入しようとしている地域で定着の可能性が高い。</p>

これらの項目による評価は、新たな知見の追加、品種改良や環境への適応（例えば低温耐性獲得や寄主転換）など対象動物の性質の変化、気候温暖化などの人為的・自然的な環境の変化に従って、見直す必要がある。

対象植物の定着の可能性に係る評価項目（例）

評価項目	内容
1-1．これまでの他地域での定着実績	<p>対象植物は、導入しようとしている地域と類似の環境条件を有する他の地域において、</p> <p>a. 近縁種も含めて生育していない。対象植物の分布域は限られている。</p> <p>b. 近縁種は生育している。対象植物の分布域はある程度限られている。</p> <p>c. 生育している。対象植物の分布域は世界各地にある。</p>
1-2．環境への適応性	<p>対象植物は、その生理生態的特性から、導入しようとしている地域の温度や湿度などの環境条件下で、</p> <p>a. 適応できる可能性は低く、十分な生育はできない。</p> <p>b. 適応できる可能性があり、十分に生育できる。</p> <p>c. 適応できる可能性が高く、生育に適している。</p>
1-3．種子生産と分散能力	<p>対象植物は、導入しようとしている地域の環境条件下で、</p> <p>a. 発芽能力のある種子を作れない。</p> <p>b. 発芽能力のある種子を作るが、分散能力は高くなくシードバンクも形成しない。</p> <p>c. 発芽能力のある種子を広く分散するか、土壌中にシードバンクを形成する。</p>
1-4．栄養体からの再生能力	<p>対象植物は、導入しようとしている地域の環境条件下で、</p> <p>a. 栄養体からの再生能力がない。</p> <p>b. 人為的な管理を行えば栄養体からの再生ができる。</p> <p>c. 自然条件下で栄養体からの再生ができる。</p>
評価結果 a. のみ b. がある c. がある	<p>1 A．導入しようとしている地域で定着の可能性はない。</p> <p>1 B．導入しようとしている地域で定着の可能性はある。</p> <p>1 C．導入しようとしている地域で定着の可能性が高い。</p>

これらの項目による評価は、新たな知見の追加、品種改良や環境への適応（例えば低温耐性や農薬耐性の獲得）など対象植物の性質の変化、気候温暖化などの人為的・自然的な環境の変化に従って、見直す必要がある。

対象動物の影響の可能性に係る評価項目(例)(1)

	評価項目	内容
生物多様性への影響	2-1. 上位捕食者としての影響	対象動物は、導入しようとしている地域の生物群集の中で、 a. 上位捕食者とはなりえない(植物食性もしくは腐食性)。 b. 上位捕食者となる可能性は低い。 c. 上位捕食者として、在来の生物群集に大きな影響を与えうる(導入しようとしている地域や同様の生物相を有する他地域で影響を及ぼした報告がある)。
	2-2. 植生などへの影響	対象動物による採食や踏みつけ、掘り起こしのために、導入しようとしている地域の自然植生への影響や土地の裸地化などが、 a. 生じる可能性がない(植物を採食せず、かつ踏みつけによって植生を破壊するほど大型でない)。 b. 生じる可能性がある。 c. 導入しようとしている地域や同様の生物相を有する他地域で自然植生への影響に関する具体例が報告されている。
	2-3. 競合・駆逐の可能性	対象動物は、導入しようとしている地域の生物群集の中で、他の動物に対して、食物、営巣場所、生息場所などの資源をめぐる競合を引き起こす可能性が、 a. ない。 b. ある。 c. あり、その結果ある種を駆逐してしまう可能性が高い(導入しようとしている地域や同様の生物相を有する他地域で具体例が報告されている)。
	2-4. 交雑による遺伝的攪乱	対象動物と交雑しうる在来種として、 a. 交雑可能な近縁種はない。 b. 近縁種はあるが、交雑の可能性は低い。 c. 交雑する可能性の高い近縁種や同種の別亜種がある。
	2-5. 在来生物への病気・寄生虫の媒介	対象動物は、在来の動植物への病気や寄生虫の媒介に関して、在来生物に影響することが、 a. 報告されていない。 b. 今のところ特に報告はないものの、影響を及ぼす可能性がある。 c. 重要な影響を及ぼす可能性が高いことが報告されている。

対象動物の影響の可能性に係る評価項目（例）（２）

人への影響	3-1. 財産など（農林水産業など）への影響	対象動物は、人の財産に対する好ましくない影響（食害などによる農林水産業への悪影響など）について、 a. 報告されていない。 b. 影響を及ぼす可能性がある。 c. 重要な影響を及ぼす可能性が高い（導入しようとしている地域や同様の地域で具体例が報告されている）。
	3-2. 健康への影響	対象動物は、人や家畜の健康に対する好ましくない影響（病気・寄生虫の媒介、咬みつき・吸血・毒などの有害性）について、 a. 報告されていない。 b. 影響を及ぼす可能性がある。 c. 重要な影響を及ぼす可能性が高い（具体例が報告されている）。
評価結果		
a. のみ		2 A . 影響を及ぼす可能性はない。
b. がある		2 B . 影響を及ぼす可能性がある。
c. がある		2 C . 影響を及ぼす可能性が高い。

これらの項目による評価は、新たな知見の追加、品種改良や環境への適応（例えば低温耐性獲得や寄主転換）など対象動物の性質の変化、気候温暖化などの人為的・自然的な環境の変化に従って、見直す必要がある。

対象植物の影響の可能性に係る評価項目（例）

	評価項目	内容
生物多様性への影響	2-1. 競合・駆逐の可能性	対象植物は、同じ場所に生育する他の在来植物に比べて、 a. 生長速度が遅いか生長期間が短いため、競合・駆逐する可能性は低い。 b. 生長速度や生長期間が同じくらいなので、ある程度は競合する可能性がある。 c. 生長速度が速いか生長期間が長いため大型になり、他の植物と競合・駆逐する可能性が高い。
	2-2. 交雑による遺伝的攪乱	対象植物と交雑しうる在来種として、 a. 交雑可能な近縁種はない。 b. 近縁種はあるが、交雑の可能性は低い。 c. 交雑する可能性の高い近縁種がある。
	2-3. 土壌環境の攪乱等を通じた他の植物への影響	対象植物は、窒素の固定、アレロパシー物質の放出、河川敷での土壌堆積といった、土壌環境の攪乱を引き起こす可能性が、 a. 報告されていない。 b. 重要な影響を及ぼす可能性は低い。 c. 重要な影響を及ぼす可能性が高い（具体例が報告されている）。
	2-4. 在来生物への病気・寄生虫の媒介	対象植物は、病気や寄生虫の媒介、その他の有毒性などにより、在来生物に影響することが、 a. 報告されていない。 b. 重要な影響を及ぼす可能性は低い。 c. 重要な影響を及ぼす可能性が高い（具体例が報告されている）。
人への影響	3-1. 財産など（農林水産業など）への影響	対象植物は、雑草化したり害虫を媒介するなどして、人の財産など（農林水産業など）への影響を持つことが、 a. 報告されていない。 b. 重要な影響を及ぼす可能性は低い。 c. 重要な影響を及ぼす可能性が高い（具体例が報告されている）。
	3-2. 健康への影響	対象植物は、病気や寄生虫の媒介、花粉アレルギーの抗原やその他の有毒性などにより、人の健康に影響することが、 a. 報告されていない。 b. 重要な影響を及ぼす可能性は低い。 c. 重要な影響を及ぼす可能性が高い（具体例が報告されている）。
評価結果		
a. のみ		2 A . 影響を及ぼす可能性はない。
b. がある		2 B . 影響を及ぼす可能性がある。
c. がある		2 C . 影響を及ぼす可能性が高い。

これらの項目による評価は、新たな知見の追加、品種改良や環境への適応（例えば低温耐性や農薬耐性の獲得）など対象植物の性質の変化、気候温暖化などの人為的・自然的な環境の変化に従って、見直す必要がある。